

『花を訪ねて： 梅』

## 越生七福神巡り報告（2020年2月24日（月））

初めは越生に梅の花を見に行こうと考えた。しかし只の梅見ではつまらないと思っていたら、「七福神巡り」ができることが分かった。それで伊藤さんにご相談したら、回状を廻していただいて、伊藤さんと後藤さんに参加いただくことになった。

伊藤さん、後藤さんは池袋駅から東上線の快速急行で坂戸経由で越生駅へ向かい、私は有楽町線から和光市で東上線に乗り換えて越生に行くことにした。最終待合せは越生駅 9 時 20 分である。途中順調にいったが、坂戸駅の乗換えが陸橋を渡った別ホームで 2 分きりない。兎に角駆け込んで越生に着いてみたら、伊藤さんにご到着、後藤さんは乗れなかったらしい。携帯で連絡したら、今坂戸駅におり、次の電車に乗るといふ。結果 9 時 20 分にご到着、9 時 25 分発の「黒山」行きバスに間に合った。伊藤さんが「(坂戸と越生の間の) 駅で電車のドアが開くと梅の香がしてくる」と言われた（正に“東風吹かば香いおこせ（越生）よ梅の花・・・”です）。

駅前広場には越生町の法被を着たお兄さんが二人、年配の男・女性十数人に対して、「今日は新型コロナウイルスのために観梅ツアーは中止します。個人で行ってください」と言っていた。ここでも“COVID 19”の影響がでていました。駅前の観光案内所で地図を貰ってバスに乗り込む。バスの乗客は七割位で、途中「サンピア越生」と梅園入口で数人降りたが、大部分の人は終点黒山までだった。そして我々以外の人々は、黒山三瀧と坂尻分岐の両方に分かれて歩いて行った。

快晴の下いよいよ 9 時 50 分にバス停を出発、最初は少し戻った所にある「全洞院：布袋尊」だ。ここはかなり草臥れたお堂で無人である。これでは布袋様もどこか綺麗な所にお移りになりたいだろうと思った次第。「御朱印がほしい方は龍穩寺にお願いします」との案内が出ていた。

更に 300m 程戻って Y 字路を左に取り、いよいよ山道へかかる。それほど急ではないのだが長く続いた。約 30 分歩いて 10 時半に峠に着き、それからはほぼ平坦な道になった。道の両側は檜、杉の針葉樹林帯で、沢山の杉に真っ茶色の杉の花が見える、今は幸い風がないので、花粉はあまり飛んでいないだろう。これらの木々は下枝が払われて、良く手入れがされていることがうかがわれた。

10 時 45 分に「龍ヶ谷大橋」（たつがや）に到着、ここから川に沿って約 5 分登り「龍穩寺：毘沙門天」の山門に到着した。“深山幽谷”に建つなかなか立派なお寺だ。

橋まで戻りここから再度峠越えのために登り道になった。11 時 20 分に峠に到着、今度はまた緩い下り坂だ。川沿いの少し開けた所に出てきたら、今年の台風 19 号のためか、幅 100m にわたり高さ 60~70m 位大きく崖崩れした跡を、ブルトーザを使い石を積み上げて補修をしていた。このブルトーザは斜度 30 度位の斜面で作業しているので、仰向けに転落しないのだろうか心配になってきた。11 時 50 分に“麦原口”に着いた。

12時05分に「うめその梅の駅」に到着、屋外のベンチが見当たらなかったため、室内のテーブルを使わせてもらって昼食・休憩を摂った。「円通寺：寿老人」はこのすぐ後であった。

大通り（県道60号）を横切り、両側の梅林の間を歩いて13時05分、「最勝寺：福祿寿」に着いた。山門に「梅の木の手入れのために、志納金¥100 お願いします」と書いた献金箱が置いてあったが、この壊れて倒れそうな門扉の修理の方が先ではないかな。お寺から下に降りてくると「越生梅林」の裏側入口に出たが、もう梅見は堪能したので、外から眺めることにして、入らなかった。両側にあちこち梅林の間を歩き、弘法山の麓に着いたが、「弘法山：弁財天」（高房山妙見寺）は結構急な60～70段の石段上であった。

寺の下に下ると、もう完全に町中の舗装道路を歩くことになる。「五大尊つつじ公園」の下、立派な公民館、越生町役場の前を通り、「正法寺：大黒天」に向かう。ここも山の中腹に建っており、かなり疲れてきているので、それほど高くはなかったが厳しい。後は最後の「法恩寺：毘沙門天」だ。越生駅のすぐ前にはあるはずなのだが、回り道したので、若干手間取ってしまった。

駅前の観光案内所でもう一度パンフレットをゲットして、越生駅に丁度15時30分に到着。すぐに15分32分発の電車に飛び乗り、坂戸駅でも急行に接続して後は車内で流れ解散となった。

今日は快晴のもと、全距離約12.6kmと長目の距離で、山道あり街中歩きあり、しかも梅の花の香りに包まれての歩行で良い行程であった。梅の花は満開でいやというほど堪能しました。また、山菜黄、ロウバイの花も咲いていた。

以上 陽田



越生の 白梅と紅梅